

第2回 摂津市立小中学校通学区域等審議会（園保護者） 議事要旨

日時：令和4年9月2日（金）19:00～20:30

場所：新鳥飼公民館 集会室

■ 出席者

- | | | | |
|---------|-------|------------|--------------|
| (1) 委員 | 榊 奈津子 | 鳥飼さつき園 | 園児保護者 |
| | 岩野 陽子 | とりかいこども園 | 園児保護者 |
| | 小川 佳奈 | とりかい遊育園 | 園児保護者 |
| | 河村 謙太 | とりかいひがし遊育園 | 園児保護者 欠席 |
| (2) 事務局 | 藤原 崇裕 | 摂津市教育委員会 | 教育政策課長代理 |
| | 井上 智之 | 摂津市教育委員会 | 教育政策課主幹兼総務係長 |
| | 長島 秀樹 | 摂津市教育委員会 | 教育政策課主事 |

■ 内容

1. “鳥飼地域における学校規模適正化について” 資料説明
2. 意見交換

■ 配布資料

(資料1) 鳥飼地域における学校規模適正化について

1. “鳥飼地域における学校規模適正化について” 資料説明

事務局より資料1説明

2. 意見交換

事務局： 本日は少人数での開催ということで自由な意見交換ができればと考える。

委員： テレビ等で離島の小規模校の様子を拝見したが、きめ細かな指導が行われている印象を受けた。一方で摂津市において小規模校4校を無理に維持していくことで、教育の質が下がる場合は子供を通わせたくないと感じる。

事務局： 小規模校を維持していくことについて財政面に着目すると、設備面での固定費があるため、通う人数が減る程コストパフォーマンスは下がる。また小規模校の小学校教員について着目すると、1つの学年を1人の教員が受け持つこともあり教員同士の切磋琢磨が生まれにくい点と、周囲に相談できる相手がいらないことからメンタルヘルスに不調をきたしやすい等の問題がある。

- 委員： 小学校において現状の35人学級では人数が多い。きめ細かな指導を行うには25人ぐらいが理想に感じる。学校規模適正化を行い、1クラスあたりの人数が増えることが必ずしも良いとは感じない。例えば日本語の不自由な児童等のケアがおろそかになってしまうのではないか。
- 事務局： 国が小学校においては35人を適正としている。一方、中学校においては検討段階のため改正の可能性はある。また日本語不自由児童への対応として、大阪府による教員の加配に加えて、摂津市でも日本語指導講師の配置を行っているため、ケアについての差はないと考える。
- 委員： 摂津市では、他校区からでも希望した学校に入学することを認めているか。
- 事務局： 特色のある学校づくりを行い、校区外からの通学を可能とする“特認校制度”を取り入れている市もあるが、摂津市では現在採用していない。
- 委員： 鳥飼地区は交通の便が悪い。若い世代の流入を狙って駅を作ることはできないか。
- 事務局： 鉄軌道に関してはこれまでも要望等をしているが、難しい状況である。バスに関しても同様に採算上、増便は難しい。全国的に人口減少している中、何か起爆剤となるようなきっかけがなければ大幅な人口流入は見込めない状況である。
- 委員： 現在の通学区域は大阪高槻線を跨らないように設定されているが、大通りを跨らないようなルールがあるのか。
- 事務局： ルールはないが、自治会の区域や当時の関係者の方々のご意見を踏まえて、現状の形に決まったと推察する。
- 委員： 校区再編では根本的な解決を図ることはできない。小規模校を統合の上、特認校にし、魅力ある学校づくりを行う等、周辺地域から児童を呼び込むことが大切だと思う。
- 事務局： それでは小規模校の統合について、どのようにお考えか意見をいただきたい。
- 委員： 人数が原因で運動会のクラス対抗競技ができないことや、中学校の部活動が限定されることを考えると非常に可哀想なので、統合には基本的に賛成である。ただしメリット・デメリットをしっかりと整理して丁寧に議論を進めていく必要がある。

委員： 通学距離が遠くなってしまうことは大きなデメリットである。通学バス等の何らかの対応策があればありがたい。

委員： 国の基準では小学校の通学距離は4キロ以内であれば適正であるが、実際は2キロ程度が限界と感じる。距離を最優先に考えたうえでの統合を検討してほしい。

事務局： 中学校の適正配置や通学についてはどうお考えか。

委員： 中学校は統合すべきだと思っている。また中学生の自転車通学はありだと考える。小学生でも放課後は自転車で縦横無尽に走り回っているため、中学生となると不安は少ない。

事務局： 最後にご意見やご不明点等があればいただきたい。

委員： 特認校制度を取り入れて、魅力を創造し、人を呼び込むことが最も現実的に感じる。小中一貫校については、小学生が中学生の行う危険行為等の真似をしてしまわないか不安である。

委員： 小中一貫校については課題があると思うが、当面の対処として校区再編や統合を行うことは賛成である。

委員： 通学距離が遠くなることは反対だが、生徒数を考えると統合すべきだと思う。今回、メリット・デメリット等様々な意見が出たため、すぐに答えを出すことは難しいが、いい案を考えていきたい。

事務局： 今回の審議会を通して、様々なご意見をいただき、最終的に答申としてまとめさせていただくが、今後も忌憚のないご意見をよろしく願います。また、次回は保護者へのアンケート調査の結果等、関係者の方々の生の声を踏まえて議論を進めていく予定である。